

全国結核予防婦人会だより

発行●公益社団法人全国結核予防婦人団体連絡協議会

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町1-3-12 TEL 03-3292-9288

2019.7

No.126



2019年度
複十字シール 図案

健康の輪



健康日本21

編集●全国結核予防婦人団体連絡協議会事務局(結核予防会内) 題字●初代会長 廣瀬勝代

第70回結核予防全国大会開催



大会式典でおことばを述べられる秋篠宮妃殿下

平成31年2月28日木曜日、東京都文京区のホテル椿山荘東京において、天皇皇后両陛下の行幸啓を仰ぎ、結核予防会総裁秋篠宮妃殿下のご臨席の下に、第70回結核予防全国大会が開催されました。

大会式典では、秋篠宮妃殿下よりおことばを賜りました。

また、同式典で第22回秩父宮妃記念結核予防功労賞表彰式が行われました。

全国結核予防婦人団体連絡協議会からも事業功労賞団体部門で、特定非営利活動法人東京都地域婦人団体連盟が受賞し、秋篠宮妃殿下より表彰状が授与されました。

(秋篠宮妃殿下のおことば本誌2ページに記載)

公益財団法人結核予防会創立八十周年記念 第七十回結核予防全国大会 おことば

平成三十一年二月二十八日（東京都）

本日、「公益財団法人結核予防会 創立八十周年記念 第七十回結核予防全国大会」の開催にあたり、天皇后陛下下のご臨席を賜りましたことは、私ども結核予防事業に携わる者にとって誠に光栄であり、この上ないよろこびでございます。

結核予防会は、今から八十年前の昭和十四年、国民病とも呼ばれた結核の苦しみから人々を救うために、創立されました。その後、治療薬の開発や診断の技術革新が進み、多くの人々のため努力のおかげで、日本の結核患者数は大幅に減少しました。結核予防関係者の貢献に深く感謝し、本日、「第二十二回 秩父宮妃記念結核予防功労賞」の表彰を受けられる皆さまに、心よりお祝いを申し上げます。

一方、免疫機能が低下した高齢者が、若い時に感染した結核菌によって発病するなどの問題もあり、日本の結核罹患率は、いまだに欧米より高い水準です。一昨年は、国内で、約一万七千人が新たに結核を発病し、約二千三百人が結核で亡くなりました。

世界では、一昨年、約一千万人が結核を発病し、約百六十万人が結核で亡くなりました。また、薬を最後まで飲み続けられないことにより、結核菌が多くの治療薬に耐性を持つてしまう多剤耐性も、深刻な問題です。

このような問題に対処するため、昨年九月には、「国連総会結核ハイレベル会合」で、結核への対策を強化することなどの宣言が了承されました。また、昨年十月には、世界から結核をなくすことを願う人々がオランダに集まり、「肺の健康世界会議」が開催されました。結核は、今も世界の重要な課題の一つです。

天皇后陛下下におかれましては、これまで、結核の治療や予防などの取り組みに、お心をお寄せくださいました。このことは、関係者の大きな励みとなり、結核予防会を代表し、改めて、厚く御礼申し上げます。私たちは、これからも、結核を予防することの大切さを広く伝え、人々の健康を支えるために、力を尽くしてまいります。

終わりに、皆さまの今後のご健康とご活躍を心から願い、式典に寄せる言葉といたします。

第二十三回 結核予防関係婦人団体中央講習会 おことば

平成三十一年二月四日（東京都）

本日、「第二十三回 結核予防関係婦人団体中央講習会」の開講式にあたり、全国からお集まりの皆さまにお会いできましたことを、大変うれしく思います。

結核予防婦人会の皆さまをはじめ、多くの人々のため努力のおかげで、以前は国民病ともいわれた日本の結核は、減少しています。しかし、一昨年も、国内で、一万六千七百八十九人が新たに結核を発病し、二千三百三人が結核で亡くなりました。

高齢になって免疫機能が弱まった人が、若いころに感染した結核を発症するなどの問題もあって、日本は、結核罹患率が未だに欧米より高く、結核の中ま

ん延国です。世界では、一昨年、約一千万人も人々が結核を発病し、約百六十万人が結核で亡くなりました。また、薬を最後まで飲み続けられないことにより、結核菌が多くの薬に耐性を持つことも、深刻な問題です。このような状況の中、日本国内の結核患者の中でも、二十代では、外国生まれの患者の割合が、六割以上を占めています。

国際的な取り組みも行われています。昨年九月には、「国連総会結核ハイレベル会合」で、結核への対策を強化することなどの宣言が了承されました。また、昨年十月には、世界から結核をなくすことを願う人々がオランダに集まり、「肺の健康世界会議」が開催されました。この会議では、困難な治療を経て、多くの薬に耐性を持つ結核をなおした元患者が経験を発表するなど、幅広い内容が扱われました。

結核予防婦人会の皆さまが、国の内外での結核対策を支えてくださっていることを、大変心強く思っております。これから二日間にわたる講習会では、結核、がん、慢性閉塞性肺疾患（COPD）などについて講演や班別討議が行われます。皆さまの貴重な経験や情報の交換、新たな知識が、今後の実践へとつながる貴重な機会となりますことを期待しております。

皆さまが、ご自身の健康を大切にしながら、これからも、結核予防の活動を積極的に進められ、広く人々のために力を尽くされますことを心より願い、開講式に寄せる言葉といたします。

第23回結核予防関係婦人団体中央講習会開催



開講式にておことばを述べられる秋篠宮妃殿下

平成31年2月4日・5日の2日間、東京都新宿区のリーガロイヤルホテル東京において秋篠宮妃殿下よりおことばを賜り、第23回結核予防関係婦人団体中央講習会が開催されました。

全国各地より89名が参加し、結核、COPD、最先端のがん治療、機能的食品などの貴重な講演や複十字シール運動の活性化や婦人会活動についての班別討議が行われ、充実した内容の2日間となりました。

(秋篠宮妃殿下のおことばは本誌2ページに記載)

第70回結核予防全国大会決議

我が国における結核罹患率は、2017年には人口10万対13.3になり、毎年減少を続けている。しかし「結核に関する特定感染症予防指針」に掲げられた目標である2020年の低まん延国化、つまり罹患率人口10万対10以下の達成に向けては更なる努力が必要な状況である。

とりわけ、結核患者の約4割を占める80歳以上の結核患者の早期発見、20歳代の結核患者の6割を占める外国出生者対策が重要な課題である。今後も、グローバル化の進展や外国人就労拡大に伴う外国出生の結核患者がますます増えることが予想される。

また、世界では年間約1,000万人の結核患者が新たに発生しており、結核は単一の病原体による感染症のうち死亡原因の第1位である。世界保健機関によれば、4割弱に及ぶ患者は発見されていないと推定されており、多剤耐性結核やHIV合併結核に対する医療、破滅的な経済的負担を強いられる家計の問題などの多くの課題が指摘されている。このような状況に対

して、昨年9月に開催された国連総会ハイレベル会合において、初めて結核が取り上げられ、政治宣言「結核終息のための団結：世界流行に対する地球規模の緊急対応」が採択された。日本はこの歴史的な会合において共同議長国として重要な役割を果たし、今後とも世界の結核対策に対する貢献が期待されている。

以上から、本大会は、国及び地方公共団体、医療機関及び結核予防会、全国結核予防婦人団体連絡協議会等の関係団体が力を合わせ、次の6項目について努力することを決議する。

- 一、高齢者及び外国出生者の結核患者を早期発見し治療完了するための取組及び感染拡大防止や潜在性結核感染症などについての効率的かつ効果的な対策を推進すること。
- 一、高まん延国からわが国への長期滞在申請を行う者について、入国前健康診査を行うなど外国出生者に係る結核対策の強化を図ること。

- 一、結核に対応可能な医療機関の確保、適切な診断・治療、DOTSを始めとする服薬支援の強化など患者中心の医療を推進するために、医療提供体制の整備や連携を強化すること。
- 一、患者発生情報の確実な把握、地域分析の実施、菌株の確保、遺伝子検査の実施などのサーベイランスの強化を図ること。
- 一、国連が掲げる「持続可能な発展目標」及び世界保健機関の「結核終息戦略」の目標達成のため、日本の経験や技術を活かしながら、関係団体が力を合わせて、一層の国際協力を推進すること。
- 一、全国結核予防婦人団体連絡協議会を始めとする関係団体と連携して、国内対策や国際協力の貴重な財源ともなる複十字シール運動を盛り上げ、結核に関する正しい知識の普及・啓発を行うこと。

平成31年2月28日
第70回結核予防全国大会

第70回結核予防全国大会宣言

我が国における結核対策の実績を踏まえ、高齢者や外国出生者を含めたハイリスクグループ対策を強化し、患者中心の医療と支援を推進するとともに、地域の実情に合った結核医療体制の整備を更に

進め、正しい知識の一層の普及・啓発に努める。

国連の持続可能な発展目標及び世界保健機関が進める結核終息戦略の目標達成のために、日本が高まん延期を克服した経験と日本で開発

した技術を活かしながら、国内外の連携及び協力活動を更に推進する。
以上、宣言する。

平成31年2月28日
第70回結核予防全国大会

国際結核肺疾患予防連合「第49回肺の健康世界会議」に出席して(2)

結核予防会総裁 秋篠宮紀子

前号から引き続き、昨年のことになりますが、10月24日から27日まで、オランダのハーグ市で開催された、国際結核肺疾患予防連合（The International Union Against Tuberculosis and Lung Disease、略称「ユニオン」）の「第49回肺の健康世界会議」でお目にかかった方々についてご紹介いたします。

WHOグローバル結核プログラムディレクター、カサエヴァ様



世界保健機関のカサエヴァ様と

大会期間中に、世界保健機関（WHO）のグローバル結核プログラムディレクターとして結核対策を統括するカサエヴァ様とお話する機会がありました。

話題は多岐にわたりました。今回の会議では、子どもの結核が重要な課題の一つとして挙げられました。カサエヴァ様からも、世界で約100万人の子どもが結核を発症し、23万人以上の子どもが結核で亡くなっていることに、しっかりと向き合い、最優先で取り組むべきだと伺いました。

また、副作用の少ない治療薬の開発や、短時間で結核の診断ができる技術の開発が、大切な課題であると話されました。そして、結核患者を治療することに加えて、

回復した患者やその家族にも社会的な支援が必要であり、そのために患者の声を聴き、社会全体の結核に対する意識を高めることが重要であることを、お互いに確認しました。

患者自身が体験を語る

今回の会議では、結核患者や家族など、結核の当事者が、自分たちの体験を発表する企画が幾つかありました。そのうちの一つ、「スティグマに対処する実用ガイド」で、結核から回復した女性たちの体験の発表がありました。

かつては日本でも、結核が不治の病と恐れられ、結核に罹った患者だけでなく、その家族も、就職や結婚に差し支えるのではないかと心配することがあったと伺います。このような病気に伴う差別や、患者の感じる恥や苦しみの感情は、「スティグマ」と呼ばれます。今も多くの結核患者がスティグマを体験し、結核患者が時には家族

からも孤立し、治療や社会復帰が妨げられる原因にもなります。

発表では、インドや南アフリカで結核を思い、治療薬の副作用に加えて、スティグマにも悩まされた女性たちが、病気に立ち向かって健康を取り戻すまでの体験をお聞きしました。今は結核のスティグマをなくすために、自分の闘病について広く人々に伝える活動をおこなっているそうです。この企画を主催したのは、インドのGlobal Coalition of TB Activist（略称GCTA）というNGOで、結核患者が自分の体験を語ることによって、結核という病気に対する偏見や差別をなくしていこうという運動を進めています。

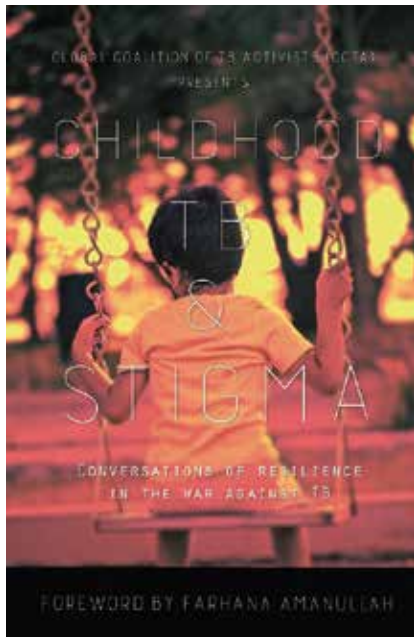
小児結核の当事者のお話

小児結核から回復したアンジェリカちゃんとお母さまのジャネットさんは、体験を語るために南アフリカから参加しました。お二人とお話することができました。



結核患者としての体験を語るために参加したアンジェリカちゃん（前中央）ジャネットさん（左端）とご一緒に

結核に罹った子どもは、決して他の人に感染させることはないと言われ、診断されていても、学校から通学を拒否されるなど、辛い経験をすることがあります。今では健康を取り戻しつつあるアンジェリカさんとお母さんの笑顔に、勇気づけられました。



冊子『子どもの結核とスティグマ』

今回の世界会議に合わせて、子どもの結核患者やその親の体験を聞き取ってまとめた『子どもの結

核とスティグマ』という冊子が刊行されました。ジャネットさんへのインタビューも掲載されています。結核の当事者が積極的に自分の体験を語ることによって、周囲の人々の理解が深まり、結核患者が治療を受けやすくなり、治療が終わってからの生活支援が進むことに繋がればと思います。

国際研修卒業生との再会

会期中には、結核研究所が国際研修の元研修生や過去に秩父宮妃記念結核予防世界賞を受賞された方々をお招きする懇親会が開かれます。今回の世界会議に参加されていた、以前に世界賞を受賞された方々、そして清瀬で研修を受け、現在ではカンボジア、タイ、ミャンマー、ジンバブエ、ザンビア、パキスタンで結核対策の要職に就いている元研修生が、懇親会に集まってくださいました。元研修生からは、現在のお仕事や日本での研修や滞在中の思い出について、世界賞の受賞者からは、日本の結核予防会の医師との長年にわたる親しい交流について、お話を伺い

ました。

結核という感染症の対策は、一つの国の中だけで取り組むのではなく、世界各国が、国の保健政策から患者の生活まで、さまざまな形で協力することが大変重要です。結核研究所で長く続いてきた国際研修が、各国で結核対策に携わる人々の交流の輪を広げ、結核対策を支える大事な力になっていることを実感しました。

今回の会議を通じて、結核予防会の医師やその他の専門家などが国際的な学会に参加し、各国の関係者と交流することの意義、そして日本の結核研究所が50年以上にわたり様々な国からの研修生を受け入れてきたことの成果を、再認識いたしました。こうした活動を支えてきた結核予防会の職員や、結核予防婦人会の皆さまなどのご努力に感謝しております。そして、結核予防会をはじめ、結核対策に携わる人々が積み重ねてきた活動や経験が、これからも世界の結核対策と人々の健康に貢献することを願っております。



世界賞受賞者、国際研修卒業生と 結核研究所主催の懇親会にて

第70回結核予防全国大会を終えて

東京都地域婦人団体連盟
会長 谷茂岡 正子



平成31年2月27日(火)、28日(水)にホテル椿山荘東京において、結核予防会創立80周年にあたり、第70回結核予防全国大会が、東京で開催されましたこと、誠にうれしく思います。

天皇皇后両陛下の行幸啓を仰ぎ、結核予防会総裁秋篠宮妃殿下のご臨席を賜り、今回の全国大会が盛会裏に挙行されましたこと、これも一重に全国各地よりご参集された結核予防関係団体皆様のお力と深く感謝申し上げます。

大会では、当婦人団体が、秩父宮妃記念結核予防事業功労賞受賞の栄誉を賜りましたことは、最高の喜びであり、意義深く、その責の重要性を、会員一同痛感しております。

妃殿下とのお茶会では、各県婦人会団体代表、開催地東京の地婦連の役員による懇談会が催され、お優しい妃殿下のお声かけに感動いたしました。

また、妃殿下には、私共の活動報告をご熱心にお聞きくださり、お言葉をいただきましたことを深く感謝いたします。

医学の進歩により、かつて国民病といわれていた結核も忘れがちな昨今ですが、いまだに中蔓延国といわれる現在、さらに重視し、私たちの知識の普及や、複十字シール運動を通じて一層積極的に取り組んでいきたいと思ひます。

今年度も、この大会を通して、お互いに協力し合い、さまざまな事業を通じて婦人会活動全体の活性化につなげていく所存でございます。

ます。そして、一日でも早く低蔓延国になるよう努力していきましょう。

終わりに、本大会でいろいろとご協力いただきました婦人会の方々に深くお礼申し上げ、地元での婦人会活動のますますの発展と、皆様方のご健康を祈念申し上げます。

本部の皆様にご大変お骨折りいただきましたことに心より感謝申し上げます。ありがとうございました。🐱



大会式典



式典で宣言文を発表する谷茂岡会長

第22回秩父宮妃記念 結核予防功労賞を受賞して

事業功労賞受賞(団体)

東京都地域婦人団体連盟

第70回結核予防全国大会は結核予防会創立80周年の節目にあたる2019年の2月27日・28日に目白の椿山荘で開催されました。東京が担当ということで会員一同緊張致しました。私達は全国各地からご参加いただきました皆様を入口に

てマスコットシールぼうやと共に迎え、無事に2日間の大会を終えることができました。

全国大会式典の席上で天皇皇后両陛下のご臨席のもと、第22回秩父宮妃記念結核事業功労賞(団体)を総裁秋篠宮妃殿下から受章という栄誉にあずかり身が引き締まる思いでした。

平成17年全国結核予防婦人団体連絡協議会の支部「健康を守る婦人会東京」から結核予防の活動を引き継ぎ、毎年シール募金の趣旨を伝え、東京都を表敬訪問し、結核予防について広く一般都民に伝えるよう協力をお願いしてまいりました。また定期健診を受ける機会の少ない若い人を対象に東京都結核予防会とご一緒に無料検診を呼びかけるなど運動を継続し、さまざまな事業を展開して参りました。

近年では受動喫煙防止についても積極的に展開して国会議員に要望書を提出し、折に触れ都議会にも働きかけて参りました。しかし日本の結核罹患者は毎年減少が続けているとはいえ、低まん延状態まであと一歩です。また、結核患者の約4割を占める80歳以上の患者の早期発見や20歳代の患者の6割を占める外国出生者対策が重要な課題と言われています。これからもさらに結核予防の知識の普及に取り組んで参ります。受賞させて頂きこれを機に、皆様と共にまた、頑張りたいと思ひます。🐱



式典終了後に出席者と記念撮影

世界の結核事情－WHOの「エンゲージ結核」

東京家政学院大学人間栄養学部
人間栄養学科教授 松田 正己



創立40周年の思い出

2017年に開かれた結核予防婦人会創立40周年記念「婦人の国際会議」の折に、WHOから錦織信幸先生（メディカルオフィサー〈医官〉、世界保健機関〈WHO〉本部グローバル結核プログラム）がいらして、「結核対策に必要な要素－官民一体の対策と婦人会が果たした役割」というテーマで講演をなされました。その際に、日本の結核予防婦人会がしてきたことは、今まさに世界が求めていることだと、強く励ましていただいたのを覚えています。

それ以来私は、世界の結核対策ではどのような婦人会関連の活動が行われているのか興味を持ち、WHOのホームページで調べてみました（WHO本部のインターネットのサイトは、英語で書かれています。パソコンの自動翻訳機能を使えば、ある程度和訳でも

見られます）。

ENGAGE-TB Approach

該当しそうな箇所を捜していると、「エンゲージ結核」（結核に携わろう）という項目が見つかりました。錦織先生に問い合わせると、当日のお話はやはり、この動きについて紹介したもののお返事をいただきました。そこで、WHOの資料をもとに「エンゲージ結核」とはなにかを以下に簡単にまとめてみました。

比較的新しい取り組み

「エンゲージ結核」は2012年から始まったようです。日本では地域の結核対策は、都道府県などの保健所と病院や診療所などの医療機関が主に担っていますが、保健医療機関も要員も十分に整備されていない開発途上国では、結核対策に非政府組織（NGO）や地域の市民組織（CSO）との協力が不可欠であり、そのためにこの活動が始められました。地域には住民の健康を支援する様々なNGOやCSOがあり、保健活動でも彼らの役割が大いに期待されています。

例えば、エイズ予防やスラム対

策、刑務所、鉱山など労働現場での支援活動などに従事しているNGOやCSO（婦人会や学校の保護者会も含む）の人たちは、結核のハイリスクの人々（薬物常用者、セックスワーカー、移民など）と接する機会も多いわけです。そこでWHOは世界91カ国で、NGOや地域の市民組織に呼びかけ、結核対策に従事して（携わって）もらおうと運動を始めました。活動は、患者の発見から治療・服薬管理まで広範囲にわたります。例えば、結核の患者発見では、長引く咳、体重減少、寝汗、熱がある人には、保健医療専門職や医療機関に相談に行くように働きかけます。

今後の課題

保健医療の専門職と協力して地域の市民ボランティアにも結核対策を担ってもらおうという活動はまだ緒に就いたばかりです。「エンゲージ結核」活動の指標である、「ボランティアの協力などにより結核の新規患者の発見や治療が行われた割合」を、WHOに報告する国は年々増えていますが、2018年時点では、報告のない国がまだ30カ国程度あるようです。「エンゲージ結核」の今後の発展に大いに期待したいと思います。🍷



講演される錦織信幸先生

写真で
振り返る



第23回 結核予防関係婦人団体中央講習会

(2月4日・5日 リーガロイヤルホテル東京)



結核研究所 森 亨 名誉所長に
『結核の基礎知識とBCGワクチン』
についてご講演いただきました



がん研究会
がんプレジジョン医療研究センター
中村 祐輔 所長に
がん治療の最前線について伺いました



医薬情報研究所、株式会社 エス・アイ・シー
取締役／医薬情報部門責任者の堀美智子様に
機能性表示食品
についてご講演いただきました



結核予防会 工藤 翔二 理事長より
COPDについてご講演いただきました



班別討議オリエンテーション
慶應義塾大学商学部 吉川 肇子 教授



終講式では全国各地の参加者90名を代表して
愛媛県結核予防連合婦人会 三好 康子様より
謝辞をいただきました

中央講習会スケジュール

テーマ：自分の健康は自分で作る ～国民運動への展開～

●第1日 2月4日(月)●

- | | |
|-------------------------------|-------------|
| 13:10 開講式 | 13:10～13:40 |
| 主催者挨拶 結核予防婦人会 会長 | |
| 主催者挨拶 結核予防会 理事長 | |
| 総裁おことば 秋篠宮妃殿下 | |
| 来賓挨拶 厚生労働省 健康局長 | |
| 健康の歌斉唱 | |
| 13:50 写真撮影 | 13:50～14:05 |
| 14:15 講演①(60分) | 14:15～15:15 |
| 『結核の基礎知識とBCGワクチン』 | |
| 公益財団法人結核予防会結核研究所 名誉所長 森 亨 | |
| 15:25 講演②(45分) | 15:25～16:10 |
| 『あなたにあった医療を提供する』 | |
| 公益財団法人がん研究会 | |
| がんプレジジョン医療研究センター 所長 中村 祐輔 | |
| 16:20 講演③(40分) | 16:20～17:00 |
| 『知ってますか？食品の表示!!一機能性表示食品などを例に』 | |
| 医薬情報研究所 株式会社エス・アイ・シー | |
| 取締役／医薬情報部門責任者 堀 美智子 | |

●第2日 2月5日(火)●

- | | |
|---------------------------|-------------|
| 8:30 講演④(30分) | 8:30～9:00 |
| 『たばこ病、COPDについて』 | |
| 公益財団法人結核予防会 理事長 工藤 翔二 | |
| 9:10 班別討議⑤(140分) | 9:10～11:30 |
| 《考える・まとめるー計画を立てるー》 | |
| 「クロスロードで考える婦人会活動の活性化」 | |
| 慶應義塾大学商学部 教授 博士(文学) 吉川 肇子 | |
| 全体発表会・総評 | |
| 11:40 婦人会の皆様へ(20分) | 11:40～12:00 |
| 12:00 終講式 | 12:00～12:20 |
| 主催者挨拶 結核予防婦人会 会長 | |
| 主催者挨拶 結核予防会 理事長 | |
| 修了証授与 結核予防会 専務理事 | |
| 受講生代表挨拶 | |
| 蛍の光斉唱 | |

コラム 新しい時代の幕明けに

埼玉医科大学医学部 社会医学
教授 亀井美登里



ある職人の後ろ姿

新橋駅の脇で大きな麦わら帽子を被った年配の女性靴磨き職人が熱心に仕事をしていた。その靴磨き職人とサラリーマンと思しき若き男性客との何気ない会話を交わす光景になぜかホッとした。令和の英語訳はBeautiful Harmony = 美しい調和とのこと、とすれば、この昭和の時代の香り漂う懐かしい光景は、新しい時代が目指す一つの側面を示唆しているかもしれない。

求められる人材

このところ、AI（人工知能）という単語を耳にしない日はないほどAIの話題が社会を賑わしている。遅くとも2045年までには全人類を合わせた知能を超える知能を持つAIが誕生し、そのAIがさらに優秀なAIを作り始め、AIが爆発的なスピードで進歩を続け、予測できない存在になるといわれている。AIにより、私たちの社会が今までにないスピードで成長できるらしい。

他方、AIの発展によって、様々な仕事をAIが人の代わりにこなす、消えていくであろうともいわれている。人の手で行うよりもAIで行った方が正確性や作業効率が向上する仕事、若しくはAI

が人の代わりに全てをこなせる仕事はその代表格といえるらしい。例えば、無人で走る自動運転車が走り渡れば、タクシーやトラック運転手は仕事を失うことになる。米国労働省によれば、今後10～20年程度で米国の総雇用率者の約47%の仕事が自動化されるリスクが高いとの結論に至ったとのことである。

数学者の新井紀子先生によれば、AIに代替されない人材とは意味を理解する能力を持った人なのだそうだ。AIにできるのは、基本的に生産効率を上げることだけで、新しいサービスを生み出したり問題を解決したりはできない。今重要なのは、私たちが柔軟になること。人間らしく、そして生き物らしく柔軟になる。そして、AIが得意な暗記や計算に逃げずに、意味を考えることだそうだ。生活の中で、不便に感じていることや困っていることを探すことといえる。私たちが人間にしかできないことを考え、実行に移していくことが、私たちが生き延びる唯一の方法なのだ。そこには、常に人間として感情や経験が伴う。

作家は小学2年生

一冊の絵本が大反響を呼んでいる。2010年生まれのういさんが書いた『しょうがっこうがだいすき』である。小学校が大好きになるた

めに、“小学生になるまでに”と“小学生になったら”やるといいことが小学生の視点で書かれている。例えば、前者はひらがながかけるように練習しておく、大きな声で返事ができるようになっておこうなど6項目が、後者は一生懸命にやろう、勇気を出してお友達に声をかけてみようなど10項目が挙げられている。ういさんの父親が本を出したことに刺激を受け、小1で本を書くことを思い立ち、自身の経験をもとに、小学校入学前の子に向けたアドバイスをまとめて自費出版した。本を書いた動機は、身近の小学1年生の子どもたちが小学校で何をしたらいいのか困っているようだったからなのだそうだ。その視点、発想が大人たちから絶賛されている。

次世代を見守る

新しい令和時代を担うのは、次世代の若者たちである。彼らを育てるのは私たちである。意味を理解する力を身につけられるような教育環境を作っていくことを忘れてはいけない。学びのプロセスが大事なのだと思う。人間社会の中の共感や期待は若者の学びを後押しする。これまでの人々の意識の上に新たな時代の創造の世界が広がる。そのための環境はどこにでもある。そう、あの靴磨き職人と客との会話の中にも、きっと。🍷

複十字シール運動が始まります 運動期間 8月1日～12月31日

今年も、公益財団法人全国結核予防婦人団体連絡協議会のご後援をいただき、8月1日から複十字シール運動が始まります。

結核の問題はまだまだ大きく、日本における新たな結核患者は年間約1万7千人、世界では毎日4千500人近くの人々が結核で亡くなっています。

結核を中心とした胸の病気をなくして、健康で明るい社会をつくるための複十字シール運動の推進と複十字シール募金の実施にご協力をお願いいたします。

皆さまには、運動開始にあたって、各都道府県知事への表敬訪問を通じて運動への協力を依頼いただいています。また、結核予防週間（9月24日～30日）にあわせて実施される「全国一斉複十字シール運動キャンペーン」におきましても、街頭募金や結核予防の呼びかけについて、引き続きご協力いただきたくお願いいたします。

●令和元年度複十字シール ～思い出のシール。願いを未来へ！～

結核予防会の創立80周年を記念して、シールに込められた結核予防への思いが未来に受け継がれることを願い、復刻版シールをつくりました。

1952年初回発行当時の画家やデザイナーによる図案の魅力は今も色褪せていません。1957年からの公募時には多くの作品が寄せられました。2002年からは画家・絵本作家の安野光雅氏の独創性あふれるシールが生まれました。

皆さまの思い出のシールは見つかるでしょうか？

色々なアイデアでご活用いただき、複十字シール運動の輪を広げていただければ幸いです。

※大型シール（24枚綴り）と小型シール（6枚綴り）があります。

結核のない健康で明るい社会をつくりましょう！



シールちゃん

シールぼうや



大型シール（24枚綴り）



シールぼうやのシールができました！

結核と闘う「シールぼうやとシールちゃん」の複十字シールです。

シールを使って、若い世代の皆さんにも、結核について知ってもらいましょう。

公益財団法人結核予防会・募金推進部

トピックス 世界禁煙デー記念イベントが5月31日に開催されました

WHO（世界保健機関）が毎年、5月31日を世界禁煙デーと設定し、また日本でも5月31日から始まる世界禁煙デーからの1週間を禁煙週間として普及啓発を行っています。

結核予防会も、たばこと健康問題NGO協議会に加盟し、たばこに関する普及啓発を行っています。今年、日本医師会館（東京都文京区）をお借りして、「受動喫煙防止法制化の先を見据えて」と題し、イベントを開催しました。



当日は、東京都知事小池百合子氏にご挨拶をいただき、東京都医師会長尾崎治夫氏、ちば県民保健予防財団理事長藤澤武彦氏、大阪国際がんセンター田淵貴大氏の講演があり、今後のたばこ対策の進め方について、活発な議論がされました。詳細は、たばこと健康問題NGO協議会ホームページをご覧ください（https://www.jatahq.org/tobacco_ngo/tobacco-ngo2.htm）。

● 結核予防会 寄付型 自販機

設置のご報告

飲料の売り上げの一部が、複十字シール募金となります。設置にご協力いただきありがとうございます。一部ですが、設置いただきました方々をご紹介します。



社会福祉法人なのみ一社会
特別養護老人ホーム垣生の里 様



瀬戸内町地域女性団体連絡協議会 様



佐賀県地域婦人連絡協議会 様

設置に関するお問い合わせ・お申し込みは、「特定非営利活動法人寄付型自動販売機普及協会」（フリーダイヤル：0120-937-650）までお願いいたします。🐱

募金推進部：☎03-3292-9287（直通）

ちふれ化粧品は・・・

「誰もが手に入れやすく、安心してつかえる化粧品を。」という思いを込めて創り出した私たちの化粧品です。



ちふれが、約束すること。

- **高品質・適正価格であること。**
製造や販売にかかる余分なコストを削減して、高品質を適正な価格でお届けします。
- **無香料・無着色であること。**
肌にやさしくありたい。だから、ちふれのスキンケアはすべて無香料・無着色です。
- **全成分・分量・配合目的を公開すること。**
品質の確かさや商品の安全性だけでなく、自分の肌に合った化粧品の内容を知っていただくためにも、すべての製品の全成分・分量とその配合目的を公開しています。
- **製造年月をすべての容器に表示すること。**
誰にもわかりやすく、安心して使えるように、製造記号を製造年月で表示しています。
- **環境問題に配慮すること。**
毎日使う化粧品だからこそ、環境を大切にしたい。ちふれは、詰替化粧品や植物由来容器の導入などで、環境問題に配慮しています。



ちふれ

あなたの、健康のそばに。



大正製薬



しあわせは、明日も健康であること。

人々の健康意識を高めること、日々の生活をOTC医薬品でサポートすること。
それが「セルフメディケーション」をスローガンに掲げる私たち大正製薬の使命。

OTC医薬品のリーディングカンパニーとして、
より優れた医療用医薬品の開発に力を入れるチャレンジャーとして、
常に「生活者の健康でより豊かな暮らし」の実現を目指しています。

大正製薬株式会社 〒170-8633 東京都豊島区高田3-24-1 インターネットホームページ <http://www.taisho.co.jp>
©製品についてのお問い合わせは【お客様119番室】電話03-3985-1800 受付時間8:30～21:00（土・日・祝日を除く）